



原油横ばい 米インフレ鈍化は支え

14日のニューヨーク・マーカンタイル取引所（NYMEX）で原油先物相場は横ばいだった。WTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）で期近の12月物は前日と同じ1バレル78.26ドルで取引を終えた。米連邦準備理事会（FRB）による追加利上げ観測が一段と後退したのが相場を支えた。半面、供給増で需給が緩むとの見方もあり、相場の重荷となった。

14日発表の10月の米消費者物価指数（CPI）はエネルギー・食品を除くコアが前月比0.2%上昇と市場予想（0.3%上昇）を下回った。上昇率は前年同月比でも市場予想以下だった。FRBの利上げ停止が米景気を支えるとの見方が広がり、原油需要の伸び悩みに対する懸念が後退した。

原油先物には売りも出た。国際エネルギー機関（IEA）は14日に公表した11月の石油市場月報で、世界の石油供給量は2023年に170万バレル増の日量1億180万バレルと過去最高になるとの見通しを示した。イスラエルとイスラム組織ハマスの戦闘については「供給への重要な影響は出ていない」と指摘し、中東情勢を巡る供給不安が和らいだ。



世界の石油供給見通し上げ、IEA 中東情勢は影響せず

国際エネルギー機関（IEA）は14日に公表した11月の石油市場リポートで、2023年の石油供給見通しを上方修正した。米国などの増産分を織り込んだ。イスラエルとイスラム組織ハマスの戦闘に関しては、「広範囲の地域紛争に発展するとの懸念は現実になっておらず、石油供給への重要な影響は出ていない」と指摘した。

23年の供給見通しは前年比170万バレル増の日量1億180万バレルと、前月から20万バレル引き上げた。ハリケーンの影響が想定よりも少なかった米国やブラジルが増産した。23年の需要見通しは前年比240万バレル増の1億200万バレルと、前月から10万バレル上方修正した。

IEAはリポートで「需要が供給を上回って地政学リスクの高まりに脆弱な状態が続いており、原油価格が変動する可能性がある」と言及した。

一方、24年は供給が需要を上回るとの見方を維持している。供給見通しは1億340万バレル、需要見通しは1億290万バレルと前月からそれぞれ10万、20万バレル引き上げた。「新型コロナウイルス後の景気回復局面の終了や電気自動車（EV）の普及で、需要の伸びは鈍化する」と分析している。



広がる輸送コスト転嫁 生コンや鋼材、費用抑制へ反発も



「運賃上昇分は納入先にも負担してもらおう」。東京地区の生コンクリート事業者でつくる東京地区生コンクリート協同組合（東京協組、東京・中央）は10月、2024年4月からの生コンの値上げに向けてゼネコン各社と交渉に入った。

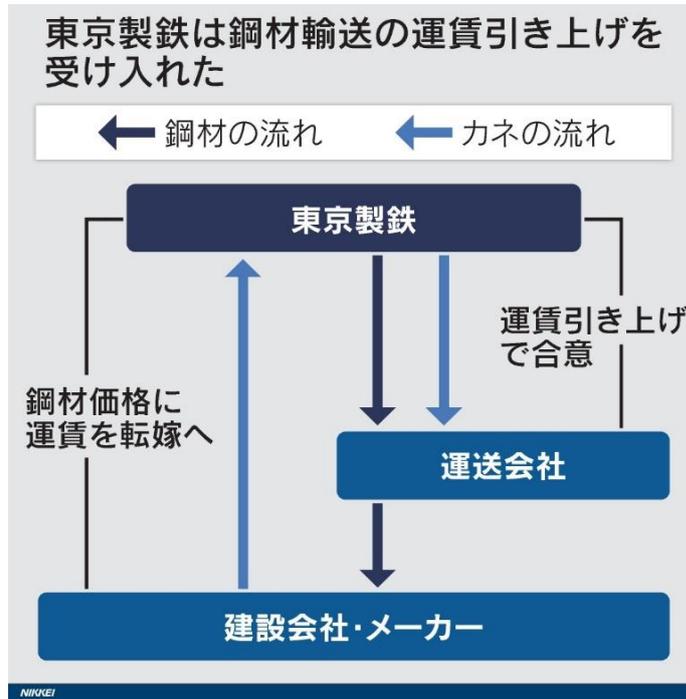
値上げ後の価格は1立方メートルあたり2万2000円と、現在より1000円（5%）高い。セメントや骨材（砂や砂利）といった原料価格の上昇もあるが、値上げ幅の3割を占めるのは、今後見込まれる骨材メーカーの輸送費上昇分だ。

生コン価格は22年以降、段階的に値上がりしてきたが、理由は原燃料高だった。今回は事情が異なる。同協組が23年4月に組合員を対象に調査を実施したところ、輸送費用などのコストは22年度に比べて1立方メートルあたり平均で約1900円増えた。

打ち出した値上げ幅は1000円にとどまるが、青木規悦理事長は「運送費が増す24年度に備え、販売価格も2000円上げておきたいのが本音だ」と語る。

生コンは工場から1時間半以内に目的地に届けるルールがある。運転手を長時間拘束することはないが、全国生コンクリート工業組合連合会（東京・中央）の斎藤昇一会長は「運転手不足が見込まれる24年度以降は、他業種との確保競争が激化する」とみる。運転手を困り込ませるため、輸送費の上昇受け入れは避けられない状況だ。

鋼材でも輸送コストの増加を加味した値上げの動きがみられる。日本製鉄傘下の日鉄建材は建築物の床材に使うデッキプレートとよばれる製品について、24年4月納入分から販売価格を5%程度引き上げる。輸送コストの上昇を主な理由としている。



東京製鉄は50社程度の運送業者と個別に協議し、10月までに運賃の大幅引き上げを受け入れた。引き上げ合意は5年ぶりだ。運転手の賃上げや、輸送時間を短縮するために使う高速道路の料金などを加味している。製品価格に上乗せされる見通しだ。

建設・製造業ではサプライチェーンの上流に位置する産業素材から最終製品に向けて輸送コストの増加分を転嫁する流れが広がりそうだ。大和証券の寺岡秀明チーフアナリストは「工事単価の急激な上昇で需要家であるゼネコンは利益率が低下している。資材費が高止まりするなか一層の値上げに反発を強める可能性は高い」と指摘する。

建設資材の荷動きは工事現場の人手不足や資材価格の高騰を背景に低水準で推移している。東京など大都市の大型再開発は堅調だが、中小の建設案件ではコスト高を受けた着工の先送りや中止、工事計画の縮小などの動きが見られる。価格転嫁の流れが滞る可能性もある。

製造業も新型コロナウイルス禍からの回復は鈍い。経済産業省がまとめた鉱工業生産指数は直近の8月（確報値）で前月比0.7%低下した。生産は「一進一退で推移」（同省）の状況だ。

24年問題をコスト面で克服できるか。成長に乏しい日本経済の余力は少ない。



建設大手3社が営業減益 4~9月、資材高の転嫁遅れ響く

ゼネコン（総合建設会社）大手4社（鹿島、大林組、清水建設、大成建設）の2023年4~9月期連結決算が13日出そろった。大型建築工事を中心に資材価格の高騰分を転嫁しきれず、鹿島を除く3社が営業減益となった。製造業を中心に設備投資意欲は活発なもの、人手不足が受注の障壁となり今後の収益確保に影響がでる懸念もある。

13日に発表した大成建の4~9月期連結営業利益は前年同期比42%減の130億円、鹿島の同利益は2%増の664億円だった。清水建は99%減の1億6500万円、大林組は26%減の308億円で、大手4社中鹿島だけが営業増益を確保した。

ゼネコン各社の連結業績 (23年4~9月期、単位億円)			
	売上高	営業利益	純利益
鹿島	1兆3058(15)	664(2)	500(▲9)
大林	1兆813(17)	308(▲26)	297(▲23)
清水	9368(13)	1(▲99)	162(44)
大成	7381(3)	130(▲42)	148(▲20)

(注) カッコ内は前年同期比増減率%。▲は減

NIKKEI

工事採算を示す完成工事総利益率（建築・単体ベース）を見ると、鹿島が9.8%と大林組（5.7%）や清水建（1.7%）、大成建（1.1%）に比べて高い。鹿島は強みの先端半導体工場に注力し、都心再開発の安値受注競争から距離を置くことなどで「不採算案件が少ない点が利益の格差を生んでいる」（大和証券の寺岡秀明チーフアナリスト）という。

一方、利益率を落とした大成建は「複数の工事で資材価格の高止まりの影響が出た」（岡田正彦代表取締役専務執行役員）ほか、世田谷区役所の本庁舎建設工事での工期の遅れで工事原価が上昇した。清水建も資材高に加え、東京都港区で手がけたオフィスビルの施工での工期遅れが響き採算が悪化した。

13日に発表した鹿島と大成建は通期の連結純利益を上方修正した。鹿島は本業の好調を反映した。大成建は政策保有株の売却益が利益を押し上げるが、買収を決めた中堅ゼネコンのピーエス三菱の業績寄与は現時点で織り込んでおらず、見通しは最終微減益にとどまる。



今後も工事契約時の建築コストが各社の業績の足かせになりそうだ。民間では、資材価格に応じて契約額を見直す「スライド条項」の導入が進んでいない。24年3月期通期の完成工事総利益率見通しは清水建が5%、大成建が4.1%と回復を見込むものの、20年3月以降は採算悪化傾向になっている。

日本建設業連合会（日建連、東京・中央）は10月、建設工事に関わる変電設備や空調機などの23年9月時点での価格が20年12月比で4～6割高い現状を示す冊子を配布した。大規模建築に採用されるような特注の設備は目安となる指数もないため「会員企業が抱える案件で設備工事費が上昇している現状が十分に説明できていない」（日建連）と訴える。

清水建の山口充穂執行役員は「採算を重視して受注活動を進めているが、利益率が以前の水準まで高まるにはあと1～2年はかかる」と語る。大成建も「好採算受注の効果が現れるのは25年度以降」とみる。

「製造業の投資意欲は旺盛」（鹿島）ななか、さらに各社を縛るのが人手不足だ。大成建は24年3月期通期の個別建築受注高の見通しを1600億円下方修正した。24年4月から罰則付きの残業規制が導入されることを見越し、「現状の仕事量を消化する方針」という。



週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替レート(▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル/バレル	前週比	ドル/円	前週比	円/ℓ	前週比
火曜日～ 月曜日	10/3～10/9	87.45	▲ 6.95	150.21	▲ 0.20	82.62	▲ 6.68
	10/10～10/16	88.21	0.76	150.21	0.00	83.33	0.71
	10/17～10/23	92.04	3.83	150.83	0.62	87.31	3.98
	10/24～10/30	89.92	▲ 2.12	151.05	0.22	85.42	▲ 1.89
	10/31～11/6	87.01	▲ 2.91	151.32	0.27	82.81	▲ 2.61
	11/7～11/13	82.44	▲ 4.57	152.00	0.68	78.81	▲ 4.00
水曜日～ 火曜日	10/4～10/10	86.86	▲ 7.29	149.88	▲ 0.72	81.88	▲ 7.30
	10/11～10/17	88.48	1.62	150.41	0.53	83.70	1.82
	10/18～10/24	92.29	3.81	150.87	0.46	87.57	3.87
	10/25～10/31	89.58	▲ 2.71	151.00	0.13	85.07	▲ 2.50
	11/1～11/7	86.65	▲ 2.93	151.47	0.47	82.55	▲ 2.52
	11/8～11/14	81.78	▲ 4.87	152.33	0.86	78.35	▲ 4.20

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSレート